

令和7年度 第1回 八千代市学校適正配置検討委員会記録

日 時 令和7年7月30日 17時30分から19時10分
場 所 八千代市大和田138-2 八千代市教育委員会2階大会議室
議 題 1 開会
2 委員長及び副委員長選出
3 議事
「西八千代地区内高津地域の小中学校の適正配置について」
3 その他
4 閉会

公開又は

非公開の別 公開

出席者 <以下敬称略>

大山光晴，八巻憲一，落合啓子，栗根秀光，岩瀬浩子，関根薫
伊藤清，長谷川幸雄，新谷等，榊原伊織，星山司，掛川良治

事務局 教育次長 兒玉健司，教育総務課長 渡邊久貢，指導課長 加藤英昭
保健体育課長 宗像洋，学務課長 片波見昌浩

傍聴者定員 5名

傍聴者 2名

事務局 それでは、定刻になりましたので始めさせていただきます。本日はご多用の中ご出席いただき、ありがとうございます。

本会議は、八千代市審議会等の会議の公開に関する要領に基づき、傍聴を許可しております。本日は2名の傍聴の届け出があり、傍聴許可いたしましたので、お知らせします。なお、傍聴者の皆様におかれましては、許可書に記載されております、注意事項をお読みいただき、発言はご遠慮いただきますようお願いいたします。審議会終了後、会議録は公開することとなっております。

続きまして、委員の委嘱になりますが、本日は協議の時間を多くとらせていただきたいと考えております。そのため、皆様の机の上に委嘱状を置かせていただきましたので、ご確認ください。委嘱状について何かございましたら、会の終了後に事務局までご連絡ください。

続きまして、委員の皆様から自己紹介を簡単にお願いします。

【自己紹介】

事務局 本日は種村委員，多田委員，切替委員の3名が欠席の連絡を事前に受けています。また，掛川委員が遅れて参加するという報告を受けています。

委員の出席が過半数に達していますので、八千代市学校適正配置検討委員会設置要綱の第4条2項に規定していますことから、本日の会議は成立することをご報告します。ただいまより、令和7年度第1回八千代市学校適正配置検討委員会を開催します。

今年度の八千代市学校適正配置検討委員会におきましては、委員長から諮問書が出されておりますので、まず、諮問の内容について確認します。お手元の会次第の次にとじ込んであります諮問書の写しをご覧ください。

まず、諮問事項としては、「高津地域における市立小中学校の学校適正配置の進め方について」です。

諮問理由について、趣旨を説明します。高津地域における市立小中学校においては、近年、高津団地に居住する児童数の減少があり、そのことから、小規模化による教育環境への影響が懸念される学校が出ています。

一方で、高津地域における市立中学校では、大規模化している学校と小規模化傾向にある学校があり、二極化が進んでいます。以上のことから、高津地域の市立小中学校においては、豊かな教育環境を確保するため、総合的な教育環境の整備が必要になると考えたためです。

その趣旨を踏まえ、皆様に、高津地域の適正配置について、子供の教育環境や地域コミュニティとしての役割等の視点から、高津地域にふさわしい学校適正配置の進め方についてご検討をお願いしたいと考えています。

今回いただいた諮問に対して、本委員会において協議検討を進め、最終的にまとまった考えを教育長へ報告する形となっています。

続きまして次第の2、「委員長、副委員長の選出」に移ります。本委員会の議長は委員長にお願いすることとなっています。八千代市学校適正配置検討委員会設置要綱第4条に、委員長は、委員の互選により定めるとされています。委員長に立候補していただける方、または推薦していただける方はいらっしゃいますでしょうか。いかがでしょうか。

委 員 昨年度も委員長として本委員会を導いていただきました秀明大学の大山委員をご推薦したいと思います。

事 務 局 ただいま大山委員のご推薦がありましたが、他に立候補推薦等はございますか。では、大山委員いかがでしょうか。

委 員 恐縮ですが、委員さんと私の住まいは、100メートルぐらいしか離れていませんが、同じ地域の方からこのような言葉をいただき、謹んでお受けいたします。

事 務 局 それでは、委員長を大山委員にお願いしたいと思います。また、要綱第4条に基づき、委員長から副委員長の指名をお願いします。大山委員長よろしくをお願いします。

委員長 できれば学校の先生をご経験の方が、事情を御存じなので、掛川委員に副委員長を務めていただきたいと思いますのですが、皆様いかがでしょうか。

事務局 それでは、副委員長は、睦小学校の掛川委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以降の進行については、委員長をお願いします。

委員長 新しい方に一言だけ。私は秀明大学の学校教師学部ですが、勝田台小学校、勝田台中学校の出身で八千代の教育には大変お世話になっているので、このような形で八千代の教育の役に立てることがあればと思い委員を引き受けています。何卒よろしくお願いいたします。

早速ですが、議事に移ります。本日の議事は、「西八千代地区内高津地域の小中学校の適正配置について」ということになっております。新しい方もおりますので、まずは事務局から説明をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

事務局 説明の前に資料の確認をします。まず、お手元の資料、左上に資料 1 と書いてあるものです。「八千代市立小中学校の学校適正配置の基本的な考え方について（答申）一部抜粋」というものになります。今回初めて委員になられた方もおりますので、八千代市における適正配置の基本的な考え方について、この後ご説明させていただきます。

続きまして、資料 2 は A3 の横のものになります。左上に資料 2 と書いてあるものになります。「各地域における学校の現状及び今後の状況について」といったものになります。令和 7 年 5 月 1 日時点の情報をもとに作成しました。資料としては、以上になります。

八千代市立小中学校の適正配置の基本的な考え方について説明します。学校教育法施行規則第 41 条には、「小学校の学級数は 12 学級以上、18 学級以下を基準とする。」とされています。「ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときはこの限りではない。」とも明記されており、必ずしも学級数だけでの判断ではなく、具体的にどのような教育上の課題があるのかを考えていく必要があります。

また、文部科学省の「公立小学校中学校の適正規模適正配置等に関する手引き」によると、学校規模の適正化においては、学級数や教職員数が少なくなることでの学校運営上の課題や、学校運営上の課題が児童生徒に与える影響等を基本的な視点とし、1 学級当たり、児童生徒数や、学校全体の児童生徒数、将来推計等の視点も併せて総合的に検討することが挙げられております。

それらを踏まえ、「八千代市立小中学校の学校適正配置の基本的な考え方について」の一部抜粋が、お手元の資料 1 になります。八千代市における学校

適正規模の基準・条件についてですが、国が定める基準と八千代市の実情を勘案しますと、まず、「子供たちの多様な人間関係を育むとともに、人間関係が固定的になることがないように、学級数の最小規模を定めるとすると、小学校においては、1 学年、複数学級を有すること。」「中学校においては、教科領域の指導や行事、部活動が円滑にできる十分な教員数を有することを重視するように努める。」としています。

これらの原則を適用すると、八千代市においては、小学校では 12 学級から 24 学級、中学校では 6 学級から 18 学級が学校適正規模の目安と考えられています。

次に、八千代市における学校適正配置の基準条件についてですが、学校規模の適正化は、子供たちに、よりよい教育環境を提供することを目的としており、学校規模の大小にかかわらず、子供たちの教育環境に大きな格差を生じさせないようにすることが大切であるとされています。

八千代市における適正配置の基準・条件においては、以下の 3 つの事項について考えることとされています。

まず 1 つ目は、「よりよい教育環境」です。学校適正配置は、望ましい学校規模の中で、教育活動が行われることを最優先の目的として考え、そのための教育環境の整備や教育内容の充実を図ることができるようにするとともに、児童生徒の安全確保を重視するとしています。

2 つ目は、「地域コミュニティとしての役割」です。学校と地域社会の繋がりを考えると、地域コミュニティの拠点としての役割を考慮していくことが望まれます。

3 つ目は、「長期的な視点での検討」です。将来的な児童生徒数の見通しに基づいて検討するとともに、災害時避難場所としての役割等、重要な公共施設であることを強く認識し、学校施設の耐震診断の結果や老朽化に伴う建て替え等も考慮しながら、検討することとされています。以上が、八千代市立小中学校の適正配置の基本的な考え方となります。

続いて資料 2 をご覧ください。「令和 7 年度の各地域における学校の現状と今後の状況について」になります。令和 7 年 5 月 1 日時点における、当該の学校の児童生徒数で算出していますが、令和 8 年度以降については、当該学区に居住している未就学児に各学校の就学率を掛けたもので算出しており、あくまでもこちらは推計値となっています。そして、令和 14 年度以降につきましても、現段階では算出することができないため、空欄となっています。

表の見方ですが、上向きの白の三角については、適正規模を上回る学校で、上向きの白の三角が二つついているものは、学校規模を大きく上回る学校と

なっています。下向きの黒の三角については、学校適正規模を下回る学校で、黒の三角が増えるほど、学級数や、学校全体の児童生徒数が少ない状況を表しています。赤字で書かれているところですが、令和3年3月に八千代市公共施設等個別施設計画で示されたものになります。この計画においては、八千代市の公共施設の延べ床面積の6割近くを小中義務教育学校が占めており、公共施設等全体の最適化を図るためには、今後、老朽化に伴う改修等のコストを考えた場合、統合等を検討する必要がある学校を示しています。この計画は、公共施設というハード面の観点から、資産管理課から出されたものであり、ここに示されている学校がすべて統合されるという意味ではなく、検討を行うということになります。

八千代市内においては、学校適正規模の上限や下限を超えている学校がいくつかありますが、今年度の本委員会においては、先ほどの議題にもありましたように、高津地域の適正配置について、ご協議いただくこととなります。資料については以上になります。

それでは、高津地域について、詳しく見ていきます。高津地域の学校についてですが、小学校は西高津小学校、高津小学校、そして、南高津小学校の3校があります。そして、中学校は高津中学校と東高津中学校の2校があります。

令和7年5月1日時点における、小学校の現状から説明します。まず、西高津小学校ですが、昨年度と比べると、全校児童数は14名ほど減っています。学校規模は、現在、適正規模に収まっています。次に、高津小学校ですが、昨年度と比べると、全校児童数は23名減っています。学級数では、適正規模の下限ぎりぎりである12学級となっています。最後に、南高津小学校ですが、昨年度と比べると、全校児童数は1名増えていますが、学級数で見ると、適正規模の下限を下回る11学級となっています。

次に、高津地域の今後の児童数の予測を小学校別に見ていきます。まず、西高津小学校ですが、昨年度の本委員会の際には、微増する年もある予測でしたが、最新のデータをもとに算出すると、来年度以降も減少する結果となっています。今年度の児童数と比較をすると、6年後には31%減の245人とされています。次に、高津小学校ですが、こちらも毎年減少となる見込みです。昨年度の本委員会の際のデータと比べると、減少傾向は緩やかになったものの、今年度の児童数と比較すると、6年後には19.5%減の293人となる見込みです。最後に、南高津小学校ですが、西高津小学校や高津小学校に比べると減少数では少ないものの、昨年度の本委員会のデータと比べると、児童数の減少は2倍に増え、6年後には、現在の児童数から40人減り、196人となる見込みです。

以上、高津地域の小学校の現状と今後の状況の予測を見ていただきました。高津地域の小学校における課題として、南高津小学校の小規模化と学校適正規模の下限で踏みとどまっていますが、児童数のさらなる減少が予測される高津小学校の小規模化。この2点が挙げられます。しかし、これらの課題に対し、対応策はまだ議論されていませんでした。そこで、昨年度の本委員会において、南高津小学校と高津小学校についての議論が始まりました。議論された内容は、後程お伝えします。

続いて、令和7年5月1日時点における、高津地域の中学校の状況について説明します。高津中学校は、昨年度に引き続き今年度も市内で最も生徒数が多く、学校適正規模を超えている状況です。一方、東高津中学校は、昨年度より1学級少ない7学級という状況ですが、学校適正規模に収まっています。しかし、令和5年度の本委員会において、東高津中学校の小規模化による学校運営上の支障が出始めている可能性があるとの指摘がありました。

今後の生徒数の予測をご覧ください。高津中学校においては、毎年増加をしていきますが、東高津中学校においては減少傾向となります。今後、東高津中学校は学級数において、適正規模を下回ることも予測されます。

高津地域の中学校の課題としては、高津中学校の大規模化がありますが、令和6年5月に、副市長を長とする全庁横断的な組織である「西八千代地区小中学校等対策検討委員会」において、西八千代地区の中学校対策の方向性を公表しました。方向性としては、①当該地域の市立小中学校または県立高校等の既存施設の活用を基本とする。②当該地区の生徒の生徒数の状況に応じて、既存施設に対し、必要な改修、増改築を実施する。③通学区域の変更は、子供、保護者、地域への影響に配慮し、必要最小限とすることとし、方針の決定を令和6年度末には決定するように努めることとしていました。しかし、方針決定を急ぐことは、対応策の選択肢を自ずと狭めてしまうことから、次に挙げる3点の理由から、当該地区の、児童生徒の豊かな教育環境の確保、充実のため、方針の決定を急がず、延期することが望ましいと判断されました。

まず1点目は、当該地区に居住する児童生徒数の状況が変化し、高津中学校の現存の教室数で生徒が収まらなくなる時期の予測に1年ほど遅れが生じる見込みとなったことです。当初は令和10年度には、高津中学校の保有教室数を超える見込みでしたが、住民基本台帳に基づく当該中学校の学区に実際に居住する子供たちの数で、今後見通したところ、令和11年度には、高津中学校の保有教室数を超える見込みとなりました。

2点目は、当該地区における一部の市立小中学校で児童生徒数の減少に伴う適正配置の具体的検討が、八千代市学校適正配置検討委員会で行われる予

定となったことです。本委員会において、当該地区における適正配置について協議された内容も踏まえ、今後の中学校対策の方針決定が西八千代地区小中学校等対策検討委員会で行なわれることになります。

3 点目は、千葉県教育委員会による「県立高校改革推進プラン・第 2 次実施プログラム」(案)が、令和 7 年度上半期には示される見通しとなったことです。

これらの理由から、令和 7 年 4 月に西八千代地区小中学校対策の方針決定の延期を公表しました。

その後、令和 7 年 5 月 26 日の千葉県教育委員会定例会において、「県立高校改革推進プラン・第 2 次実施プログラム」(案)が公表されました。それによると、少子化への対応と、多様なニーズに応える新しい学校づくりとして、令和 10 年度に、八千代東高校と八千代西高校を統合し、統合後は八千代東高校の校舎を使用することとしています。

今後、「県立高校改革推進プラン・第 2 次実施プログラム」(案)は、パブリックコメント等を経て、定まる見込みです。以上が、高津地域における中学校の現状です。

ここからは、昨年度の本委員会において協議されました内容について確認をします。

まず 1 つ目ですが、高津地域における少年野球のチームにおいては、もともとは高津小学校の児童と南高津小学校の児童で別々のチームとして活動をしていましたが、人数不足のために、チームとしての活動ができない状況になり、隣同士のチームが合併したということでした。そこで、高津小学校と南高津小学校を合併することで、適正な人数にしていき、空いた校舎を高津中学校の過大規模化の解消につなげられるのではないかとということでした。

2 つ目です。適正配置を下回る学級数だと、行事や人間関係づくりの面から、教育環境として良いとは言えない状況であり、また、昨今の子供たちの性格等を考えると、人間関係が固定化されてしまう懸念があり、そのような状況を改善するためにも、高津小学校と南高津小学校を統合していくことがよいのではないかとのことでした。

3 つ目です。仮に南高津小学校を統合するという場合、西高津小学校や高津小学校の児童数の減少もあることから、南高津小学校の児童をそれぞれ、西高津小学校、高津小学校に入れていくような対応もできるのではないかとというような意見もありました。

最後に、1 つの学年に 1 つの学級、つまり単学級という状況が発生することで、授業に関する相談ができなくなることが生じてしまい、今後、若手教員が増えていく中で、教員の資質能力を向上させるためにも、適正規模にし

ていくことが大切だというようなご意見もありました。

以上、昨年度の本委員会で協議された内容を紹介しました。なお、こちらの資料ですが、高津地域の小学校の配置と、学区域の状況になります。この後、協議いただく際の参考としていただければと思います。グループで協議の方をしていく形になりますので、あとで、グループごとに、見やすい資料もご準備いたしますので、よろしく願いいたします。説明としては以上になります。

委員長 ご説明ありがとうございました。事務局から、非常に詳細にわたってご説明をいただいたところですが、特に、新しく委員になられた方におかれましては、なかなか一度で理解することが難しいかと思うので、協議の場でも以前からご参加いただいている方に伺うこともできるのですが、まずは、事務局に聞いておきたいというようなことがありましたらぜひ、ご質問いただければと思うのですがいかがですか。

委員 これは今小学校なのですが、中学校の配置状況、それから先ほど県立高校の八千代西高校が出ていましたが、配置状況というのは何か資料があるのですか。

事務局 今年度については、小学校についてご検討をいただければと考えております。今回委員の皆様の任期が2年間あるということでございますので、中学校については来年度以降にご協議を進めていければと考えております。今後、中学校に関する資料については準備します。

委員長 中学校は満杯になるのが1年延びたということで、我々の任期が2年間ありますので、一度に両方の話をする、と混乱するところもあるというように事務局がお考えいただいたのだと思います。

委員 人数等の説明はありましたが、市の予算等の部分は無視をして話をしていいのか、それを考えながらやっていかなければいけないのか、その辺のところを教えてください。

事務局 今回のこの会議体としましては、八千代市内にお住まいの方々に委員を引き受けていただいておりますので、市民の目線から考えていただければということになりますと、予算等につきましては、特に考えずにご協議いただければと思います。

委員長 新しく建て替えるということはないとして、改修等をするにしてもある程度のお金はかかると思いますので。その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

先ほどもご質問がありましたが、私も中学校の方はどうするのかと思っていましたが、「西八千代地区小中学校等対策検討委員会」で、今後中学校について議論が行われていくという流れもあります。その中で、ここにお集まり

の皆さんは、子ども会の方や、自治会の方等おりますが、市民の立場で市民の意見を伝える本当に大事な場ではないかと考えております。

小学校の議論を深めていただきたいということで、先ほど昨年の協議の内容を4点お話ししていただきましたが、野球チームも学校を超えて統合することや、少子化の流れで小規模になっていく中で、いろいろな意見を出し合って、市に伝えさせていただいたところです。ですから、今日は統合に関して、新しくご参加いただいた方のご理解も深めていただきながら、またいろいろな視点で、皆さんのご意見を頂戴するような会議になれば良いかなと考えております。この会議を全体で話すと、なかなか意見が出にくかったりするものですから、まず、グループごとに協議をしていただき、その後にグループのご意見を頂戴するというようにさせていただきますので、今日もそのような形で行うということを事務局も申しております。グループに分かれて協議をこれからしていきたいと思いますので、事務局お願いします。

【グループ協議】

委員長 いかがだったでしょうか。グループでの協議は以上とさせていただき、各グループでどのような協議があったのかを順にお話しいただきます。

委員 Aグループで話し合った内容ですが、高津小学校を統合するにあたり、西高津小学校と南高津小学校に分散させるという話になりました。具体的な理由としては、以前他の小学校の時に、国道296号線を超えるという状況において、父兄からかなりクレームがきたということで、高津小は今、296号線を超えるような方も入っているのですが、そちらの学区を全部、大和田西小学校に学区を変えることによって国道296号線は超えることなく通えるということ。高津中学校が、大規模化しているので、高津小学校の校舎を活用するというので考えた場合、今ある高津中学校の真横に小学校があるので、校舎をリフォームすることで、高津中学校の大規模化を解消できるというメリットも考えながらやっていけないのではないかな。学校の距離にしても、南高津小学校と高津小学校はそこまで距離が変わらないというところもあり、3校の中で統合を考えたときに、高津小を他の2校に分散させた方が、一番メリットとして大きいのではないかなという話になりました。もちろんすべてが丸く収まるとはならないと思いますが、この3校を考えた時に、Aグループではそのような考えにまとまりました。

委員 Bグループですが、基本的には我々は外部の人間なので、道路事情はあまり詳しくはわからない。大ざっぱなのですが、課題として挙げられている南高津小学校は、西高津小学校と高津小学校へ分割させるのが良いのではないかと。どのように分けるのかについては、我々はあまりよくわからないところがありますが、地元の人をお願いしてやっていくしかないのかなと。先ほ

ど一部の方からお話があったのですが、元校長先生方が集まるような会議があるとのことでしたので、その会議で話を詰めていったらどうかというお話もありました。

西高津小学校と高津小学校の学区は、国道を挟んでいて、非常に危険だなと思っています。Bグループでも少し議論したのですが、現在、国道を渡って西高津小学校へ来ている。それでうまくいっているから良いかなと思いますが、本来ならば緑が丘地区の人は、西高津小学校ではなく、みどりが丘小学校だと思うのですが、これは今更しようがないと。話が元に戻りますが、西高津小学校と高津小学校へ南高津小学校が分割していくという形。これがBグループでの話し合いの内容です。

委員 CグループもAグループと同様で、3校を2校にするのであれば、高津小学校のところに、中学校を置くというような形、例えば中学1年生は高津小学校のところに通って、中学2・3年生は、今の高津中学校を使う。もしくは、高津中学校を増築するようなことも可能ではないかという意見が出ました。ただ、もし小学校3校を1校にするのであれば、750人規模ということで、既存の校舎は使えない。そうすると建て替えも含めて、1校にするのであれば新しい学校にまとめるということもできるのかなと個人的には思うのですが。

あと、小学校の区域に関わって、中学校区の編成もどうなるか。例えば今、緑が丘近くにある八千代西高校の跡地を中学校に新しくするのであれば今の高津中学校も人数が減るということになる。もしくは、東高津中学校の方へ少し人数を寄せるということもできるのではないかということも考えられるので、小学校だけではなくて中学校のことも検討する必要があるのではないかという話になりました。

最後に、村上北小学校もかなり小規模になってきていて、今高津小学校エリアの議論なのですが、村上エリアの議論も今後進めていったほうが良いのではないかというような話し合いでした。

委員長 グループに分かれると、それぞれのグループでいろいろな意見が出て、良かったかなと。本年度の第1回として、各グループのご意見は非常に私も興味深く、他のグループの発言を聞いて聞いていらっしゃった方もおられたので良かったかなと思います。

最初、事務局からお話があったように、これは教育長からの諮問を受けておりますので、適正配置検討委員会としての考えをまとめていきたいと思えます。今日はこれいきなりまとめるということではないので、例えば、この意見をこれから2回目、3回目と、皆さんには、またご足労をおかけするとは思いますが、議論をする際にこのような情報が欲しいというような何か、

ご要望等がありますか。

委 員 今回、このグループで話したときには、先ほど、前提条件として中学校のことは考えないということで、全くその通りで考えていました。

それと、ここの中で意見が出たのは、減ることだけ考えているが、また増えるかもしれない可能性も残して、それについてもいろいろ考えておかないといけないというような話が出たので、できればこの地区における開発状況のようなものがわかると、もう少しやりやすいかなと思います。勝田台の方で言えば、商業施設のところに大きなマンションが建って、あそこも増えるよねという話もありますし、そういうようなことで情報がいろいろあれば、もう少し話せるのかなというように思います。

委 員 長 今後の開発状況がわかる範囲内で、何かあればということですね。あと、私どものグループでも、中学校のこと抜きにしたら、なかなか話ができないということがありまして。

この会議として話をまとめて教育長に考えを届けるにあたり、どのような情報があればよろしいでしょうか。

委 員 団地があるということなので、高津団地がどこのエリアかというのも全然わかっていないので、地図の中でエリアを表示していただければと思います。

委 員 長 そうですね。それはわかりやすく団地のエリア等或いは戸建てや学校のあるところ、その辺りですかね。これは事務局をお願いします。

委 員 このあと中学校の方も考えていくのであれば、申し訳ないのですが、小学校の学区と中学校の配置と学区が合わさった図面がほしいです。これが高津地区なら高津地区で、3 小学校が、東高津中学校と高津中学校に分かれているので、どこで中学校が分かれているのかわかったほうが、将来的にこの地区だけ考えても、ここに中学校があって適正だねという話になってくると思うので、できれば合わせ図があつたら目安になると思います。

委 員 もう1ついいですか。先生方の考えていることと言いますか、良いのか悪いのか、教えにくいのか否か、そのようなところを先生方がどのように思っておられるのか少し聞けたら参考になるなと思いました。

委 員 長 学校の先生方のお考えも聞きたいということですね。これも大事なことです。あと、こちらのグループでは、お子さんが通われてきたときのことをお話しくださった方がいらっしゃって、学校の意見が聞けると良いかもしれませんね。ありがとうございます。とても良い意見だと思います。他はいかがでしょうか。遠慮なくどうぞ。

委 員 先ほど通学の件で、国道を通らないという話がありましたが、もし可能であつたら、学区の保護者からの意見を聞くような場があればと思います。中学校も希望制のような話もあり、この地域のことをよく知らないので、どこ

の地域までが希望制なのかということを伺えればと思います。

委員長 地域によって、選べるような地域がありますよね。そういう議論もちょっとこちらでもありました。

委員 子ども達は村上北小学校に通っているのですが、引っ越ししてきた時点で、一番近い学校は村上小学校、次が村上東小学校、一番遠いのは村上北小学校という状況でした。学区については、学区を編成する会議体があるという話を聞きましたので、そのようなことを考えると、一概にここで学区を決めるということとはできないと思い、できればそのような人と一緒に検討できるような機会があればと思います。場合によっては、同時期に並行して検討をしなければならないのではないかと思いますので、この話のゴールとして、いつまでにどのようにすればよいのかという全体的なスピード感を知りたいです。

委員長 学区もいろいろと難しいわけですね。ご苦勞が教育委員会の中でも多い案件だということだけ知っていて、私自身は苦勞したことはないのですが。なかなか大変だと思うのですが、可能な限りいろんなご意見を、この会議のメンバー以外の方からもいただけるとありがたいということですね。他はいかがですか。

委員 今の話の流れで、学区の編成というのは、毎年変わっているのでしょうか。それとも、例えばこの学区は、10年間変わってない、20年間変わってないというのが疑問なのですが、建物とか家とか増えている中で、学区が20年前の学区のままだったら、それこそさっき言った、少しおかしいのではないかということになると思うのですが。

教育次長 今いろんなお話いただきましたので、まとめてお伝えことができることは伝えます。

学区については、「通学区域審議会」という諮問機関がもう1つありまして、こちらでこれまでも検討をして定めてきたというような経緯があります。ただ、あくまでも審議会ですので、同じく教育長から諮問をして、答申を得て、その答申を基に教育委員会で検討して決定していくといったような流れでした。子供たちが増えていた時代は、基本的に学校を次々に作れた時代があります。そして学校を次々作ったときに、多少学区の調整をしないと、新しい学校にどの地区の子どもたちに通ってもらい、元々の学校にはどの地区の子どもたちが通うかという線引きをしなければならないので、通学区域審議会の仕事としては、子どもが増えている時代は、新しい学校ができるというたびに、学区の線の引き直しをしていくというような作業がありました。今回のこの近い地域で言いますと、緑が丘の地域は、新木戸小学校ができたタイミング、昭和の終わりでしょうか、ここで学区の線を引き直すという作

業で、いろいろと地域の皆様からご意見をいただきました。

その後、平成 20 年頃に、みどりが丘小学校ができるというタイミングがあり、それに伴って、また学区の線引きを変えなければいけない事が生じました。それと同時に言うていいと思うのですが、こちらの高津地域の西高津小学校の線引き等を変えて、当時は、国道 296 号線より北の子どもたちは、新木戸小学校に通っていたのですが、どうしても新木戸小学校と、それからみどりが丘小学校が当時できるというタイミングだったのですが、この駅の近い地域の子どもたちが多くなってしまったので、一部の方々に西高津小学校に移っていただき、そして新木戸小学校とみどりが丘小学校に分けて、またその線引きもいろいろ動いたりして、地域の皆様に非常に迷惑かけたところがありました。そのような形で、学区を変えることで対応してきた経緯があります。

今年度から 2 年間皆様にご議論いただいている中で、時代の流れが変わってきて、子供たちが増えている対応については、この緑が丘や高津地域では、今回、みどりが丘小学校の分離の小学校を作ることが決まっています、令和 8 年 4 月に開校することとなっています。ですから、子どもが増えている地域への対応は済んでいるのですが、皆様に今回中心になってお話しいただく内容は、子どもが減っている地域の学校をどうしていくかということになっています。

学区に係る説明をしますと、これまで八千代市であまり経験していない、子どもたちが少なくなっている地域をどうするかという対応があり、そこを皆様をお願いしているという状況です。

1 点だけ余計な話になるかもしれませんが、先行事例として阿蘇米本地域は、子どもたちが大きく減るということで、5 年ほど前になりますが、どうするかという議論になりまして、3 小学校と 1 つの中学校を統合して、義務教育学校という新しい枠組みの学校を作るという対応で、その地域は、子どもたちが減少していることに対して、定まった経緯があります。

それは地域から、かなり強い要望で、統合して義務教育学校を作って欲しいということがありましたので、八千代市として初、千葉県で四つ目の義務教育学校ができるに至った経緯があります。

そのような経緯はあるのですが、子どもたちが減っている、阿蘇・米本地域も団地を中心としたところがございました。今回も似たようなところはありますが、お願いしたいということになります。

学区については、通学区域審議会というもう 1 つの会がありますので、先ほども少しご意見ありましたが、そのあたりとどう連動させていくかというようなことが 1 つ課題かなと教育委員会として考えています。また次回お集

まりいただく際に、このような方向性でいかがでしょうかという話ができるかなと考えています。学区の件についてはいかがですか。よろしいですか。

順番に、先ほどお話しいただいたことで少し触れさせてもらいたいのですが、八千代市内の子どもたちが減っているのか、増えているのかというお話がありました。次回には、市内全体の今後の小中学校の子どもたちの予測数の資料をあわせてご準備させていただけるとしますので、それについてはご承知おきください。

そのお話に関連すると思うのですが、例えば村上北小学校のお話を先ほどいただいたのですが、村上北小学校は児童の数が減ってしまっていて、今お手元の資料で数字は出ていないのですが、イメージで捉えていただけるようなものにはなっています。1つは、村上北小学校が例になるので、触れさせてもらいますと、上から2段目が村上地域の今後の様子となっております。マークがついていますが、下向きの三角は、学校適正規模の下限を下回っている学校で、3つ三角がついているのはかなり下回っているという意味合いですが、そのような時期を村上北小学校は迎えています。

そこで、令和8年から10年までオレンジの色になっている箇所があるのですが、この色の意味は、当該地域の適正配置について検討が必要だと考えられる時期ということで、教育委員会が作成しています。ですから、村上北小学校についても、令和8年度以降は検討しなければならない時期だというメッセージだご理解ください。ただ、全市的に見ると、上から5段目になりますが、本日皆様にご議論いただいている高津・緑が丘の地域は、昨年度から議論が始めているところではあるのですが、令和7年度8年度と検討をしなければいけない時期ということで、今順番に進めているところだというご理解をいただければと思っています。

次回、大きな市全体の資料を示させてもらえと思うのですが、適正配置検討委員会の皆さんにすべての地域を触りながら、教育長の諮問に対して提言いただくことはないと考えております。今回の諮問は、西八千代地区の高津地域の小中学校についてということでお願いしているところでありますので、基本的には西八千代地区の高津地域の小中学校についての意見の方向性をまとめていただければありがたいなと思っています。

そして、中学校の件ですが、まずは小学校という話が事務局担当からありましたが、本日皆様のご議論を伺わせていただき、当然のことながら中学校のことを考えずに小学校だけを決めるわけにいかないと思っておりますので、当初から委員にご指摘いただいたところでしたが、中学校についても当然イメージしながら、小学校をどうするかということの議論を、2回目以降もお願いできればと思います。

中学校についての情報で、全体で話ができなかったことで申し上げますと、副市長とする「西八千代地区小中学校等対策検討委員会」については先ほど説明があったのですが、こちらで議論が今進んでおりまして、現状、皆様ご承知かもしれませんが、2案あります。1案が、八千代西高校と八千代東高校の統合が行われるので、八千代西高校の校舎が空くということは、ほぼ方向性として千葉県教育委員会も示していますので、もしその八千代西高校の校舎を中学校として八千代市が使えるようなことが定まるのであれば、使っていくということを1つ考えながら、調査・研究をしているというような段階です。

もう1つの案は、八千代市内の市立小中学校を使うということになっておりますので、今日2つほどグループでご議論いただいたようですが、例えば高津中の隣にある高津小、これは高津中学校の至近ですから、細かな案を立てていただきましたが、中学校の3年間のうちに2、3年生は例えば高津中で、1年生の1年間だけは、校舎を開けた高津小学校ということも、中学校の対応としてはあり得る話ですので、もし2案のうちの市立小中学校を使うというようなことであれば、今申し上げた、また皆さんに話していただいたような策としては出てくるのかなと思っております。ただ、この中学校対応については、先ほど申し上げたように、副市長を長とする「西八千代地区小中学校等対策検討委員会」で高校活用の案を調査研究しながら、進めているところですので、見通しとしてスケジュールの話になってきますが、千葉県教育委員会が県立高校の統合を確定するのが、秋と見込まれておりますので、それに合わせて、冬には八千代市が中学校対策をどうするかが決められると思うのです。その決定については、「西八千代地区小中学校等対策検討委員会」で行われると思うので、その結論を見ながら、皆様にも、中学校を感じていただきつつ、小学校をどうするのかということのご意見いただき、方向性としてまとめていければというように思うところです。

ですから、今後のスケジュール感としては、本年度において中学校も対応が定まると思われますので、それと並行で、この地区の小学校をどうするかがまとめればありがたいなといったようなイメージです。

あとは、先生がどう考えているのかというようなお話もいただいておりますが、本委員会には八千代市の校長会のメンバーが委員としておりますので、そちらからの意見を聞いてお伝えすることもできるかもしれないので、それはまたお願いしたいと思います。

さらには、当該地域の方々や代表の方に、例えば来ていただき、お話を聞くということもできるかもしれないので、それらのことについては事務局で少し検討させてもらい、皆様のご議論がより深まるように、なるべく多くの

資料をそろえて、次回以降に検討いただけるように準備したいと思います。

お話いただいたことは大体触れられたかなと思うのですが、いかがでしょうか。ご質問やご意見があればお願いいたします。

委員 長 教育次長に詳しく丁寧にお答えいただき、ありがとうございました。

教育次長 皆様には、いろいろご意見いただきまして大変助かりました。第2回目以降もどうぞよろしくお願いいたします。

委 員 先ほど出てきました、減少傾向にある高津団地の児童はどこ的小学校に行くのですか。

教育次長 団地をどのように捉えるのかにもよりますが、この地域特有の中層の5階建てぐらいの建物をイメージして団地と申し上げると、まず、高津小学区内の国道296号線以南のあたりは、ほぼすべて団地と見て良いと思います。あとは、西高津小学区においては、一部が中層の住宅になっています。南高津小学区も一部が中層の住宅になっています。ですから、各小学校の学区の境目の辺りが中層の住宅で、南高津小学校の南側は一戸建ての住宅になっています。

委員 長 ありがとうございます。先ほど、教育次長からの話にもありましたが、次の会議までに、協議いただく資料を用意いただいて、さらに、諮問に答えられるように、適正配置検討委員会として皆さんと一緒にまとめていければと思っています。

では、事務局から連絡事項がありましたらお願いします。

事務局 今回の適正配置検討委員会は9月下旬頃を予定しております。委員の皆様には改めて開催に係るお知らせにつきましては、ご郵送させていただきますので、よろしくお願いいたします。

委員 長 令和7年度の第1回八千代市学校適正配置検討委員会はこれで終了させていただきます。本当にありがとうございました。